

36

アンドレアス・ヴェサリウスと フィレンツェ公コジモ・ディ・メディチ

泉 彪之助

介護老人保健施設 陽翠の里

アンドレアス・ヴェサリウスは、『ファブリカ』の出版後、ポローニアとピサおよびフィレンツェで解剖示説と講義を行った。ヴェサリウスは、フィレンツェ公コジモ・ディ・メディチからピサ大学の解剖学教授に招聘されたが、すでに神聖ローマ皇帝カール五世の侍医になることが決まっていたという理由で辞退した。これはヴェサリウスがメディチ家と接触した重要な機会であり、以下このことについて報告する。

『ファブリカ』、『エピトメー』は1543年6月に出版された。しかしパドヴァ大学での待遇は十分でなかったため、ヴェサリウスは、父アンドリエスの立場を継いでハプスブルク家に仕えることになった。ヴェサリウスは、1544年初頭ごろにポローニャとピサ、フィレンツェを訪れている。

メディチ家は、医師あるいは薬種商の家柄であったらしい。しかしメディチ家は銀行家となり、その財力によってフィレンツェを支配した。いわゆる老コジモ、コジモ・イル・ヴェッキオと、その孫ロレンツォ・イル・マニフィコがフィレンツェの実質上の支配者となり、フィレンツェ・ルネサンスを推進した。

ヴェサリウスを迎えたのは、フィレンツェ公コジモ・ディ・メディチである。コジモは、コジモ・イル・ヴェッキオの弟ロレンツォの子孫で、カール五世のローマ劫掠の際に戦死した黒騎士の子である。初代フィレンツェ公アレッサンドロが暗殺された後、第二代フィレンツェ公に就任した。メディチ家は、フィレンツェが共和国であるとの建前を崩さず、大公あるいは王などの称号を持つことを避けたが、これを変え、後にトスカナ大公国を創設してその最初の君主コジモ一世となったのがコジモである。コジモは、フィレンツェの政治的な地位を確立するのに努め、一方でフィレンツェを文化的に興隆させようと努力した。後に美術館となったウフィツィを合同庁舎として作ったのも、ジョルジョ・ヴァザーリに美術家としての腕を振るわせたのもコジモである。ヴァザーリは、有名な『芸術家列伝』を執筆した。

コジモがフィレンツェ公国における大学として力を入れたのが、ピサ大学であった。ピサ大学は1343年に設立され、1472年にフィレンツェ大学の医学部や法学部がピサ大学に移された。フィレンツェ公コジモは、財政難のために一旦閉鎖されたピサ大学を再開し、ピサ大学に多くの人材を招いた。ヴェサリウスの場合は、パドヴァにおけるヴェサリウスの友人ヴァルキを通じてヴェサリウスの招聘を図ったという。

ヴァザーリの『芸術家列伝』のティツィアーノの項に、その弟子で解剖学に大きな貢献をし、ヴェサリウスの著書の原画を描いた画家として「ジョバンニというフランドルの画家」、すなわちヨアネス・ステファヌス・ファン・カルカールの名が上げられている。このことから、『ファブリカ』の図版の原画はヨアネス・ステファヌスによって描かれたといわれるが、坂井建雄が疑問を呈している。

アンドレアス・ヴェサリウスが不世出の解剖学者であったことは疑いがない。しかし多くの研究者が指摘するように、『ファブリカ』の成功の原因の一つは優れた図版にあった。『ファブリカ』の成功には、この時代の美術史上の発展が影響していたと考えられる。ヴェサリウスが、イタリア・ルネサンスの興隆に大きな貢献をしたメディチ家と接触したことの意義は、決して少なくない。